

8. 養護老人ホーム（木曾寮）の 設置及び管理運営に関すること

主管：木曾寮

経緯

昭和 48 年及び 59 年に大きな増改築を行い、養護 76 名、短期養護 2 名、計 78 名定員の施設となった。また、平成 4 年に定員 32 名の小規模特養施設を併設したが、平成 22 年に廃止している。

平成 18 年度からは、介護保険制度改正により、居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所を施設内に開設し、個人契約型の施設として運営している。

旧来の基準で建設された建物は多くの課題があることから、改築を目指したが、特養廃止により、改築計画は当面先送りとなった。

しかし、現施設の一部はすでに築 40 年を経過しており、災害対策や生活の質の向上及び施設の老朽化対策の観点から、平成 28 年度より 2 年間に渡り、木曾寮あり方検討委員会で今後のあり方について協議を行うこととなった。

現状と課題

1 業務関係

現状 平成 22 年に特養を廃止し、旧特養施設を養護施設として再使用したため、管理対象が 2 ヶ所となった。

課題 管理対象が広範囲となったため、業務の効率が悪く、人件費、維持経費が増加し町村負担が増加している。

2 入所者の状況

現状 入所者が高齢化している。

課題 高齢化に伴い身体機能の重度化による ADL（日常生活動作）のレベル低下につながっている。食事、排泄、入浴、移乗等で支援の必要が増え、支援に係る職員の負担も、養護でありながら特養並みに増加している。

3 入退所状況

現状 退所により入所者に欠員が発生した場合、入所判定委員会で決定された入所待機者の中から次の入所者が決定されることになっている。

課題 待機者はいるが、様々な事情でスムーズな入所とならず、欠員が長期化するケースが増えている。

4 訪問介護サービス

現状 入退所による利用者数の変動や季節的な感染症の拡大が、大きくサービス提供に影響している。

課題 安定したサービス提供とサービス収入の確保が課題となっている。

5 施設老朽化対策

現状 平成 29 年度に施設の老朽化診断を実施した結果、修繕や改修を含め早急な対応が必要な箇所が明らかになった。

課題 あり方検討の結果を踏まえ、入所者の安全面を考慮した対策が必要である。

今後の方針

入所者への処遇を基本に捉えながらも、措置施設であることを念頭に、限られた収入の中で合理的な管理運営に努める。

なお、施設の老朽化の課題については、「2024年4月新施設移転開設」というあり方検討の方向性を踏まえ、入所者の安全面を考慮しながら、現行施設の修繕及び改修は必要最小限としていく。

施策

- 1 施設運営の見直しと業務改善
 - ① 業務内容や勤務体制の見直しと事務の効率化
 - ② 木曾寮あり方検討委員会で示された運営のあり方についての調査研究の継続
- 2 サービスの向上
 - ① 職員の資質向上と入所者への処遇改善
 - ② 移転改築方針に沿った新施設の建設準備